「乳幼児ケアヘルパー研修講座」受講の皆さんの声

2018年度に受講された皆さんのご感想の一部をご紹介します。

■第1回：子どもの心の発達と大人のかかわり

- 男の子、女の子の心の発達の違い、子どもの自尊心のありようなどを具体的に知る事により、今まで現場で不思議に思っていたことが一つずつ解決できて、「そうなんだ!」とスッキリしました。【50代 保育士】
- 昨今グレーゾーンと言うような発達に対してのあいまいな言葉が使われていますが、人的環境を少し変えることで発達へ良い刺激となり、障がいが軽減される、気にならなくなるという事例が心にしみました。【40代 保育士】
- 現在乳児クラスの担当として10年以上勤めているのですが、保育について少し迷いが出てきたため、もう一度色々なことを振り返り、学び直したいと受講しました。すべての講座内容が現場で起こっている事例を挙げての研修のため、明日から役立つ内容ばかりでうれしいです。【40代 保育補助】

■第2回：子どもの食育 ～基礎知識と実践～

- 食育について、そういうことまで食育だったんだと気づかされました。食は人の生を支える基本であり、食べることは生きることだという原点に戻れて良かったです。【50代 助産師】
- アレルギーについての内容は、現場の私たちが知らなければならない義務であり、実践につなげるための正しい知識を持つことの大切さを学びました。又食事は子どもたちの心の発達をうながすツールとして使えることを学びました。【30代 保育士】

■第3回：子どもの成長発達と親支援、保護者へのコミュニケーションワークの実際

- エリクソンの発達課題の段階をみて、保育士、保護者の中には段階を踏まえて発達できていない部分、足りていない段階が多くあることを実感しました。つらい思いをして子育てしている大人の「助けて」に対してサポートの必要性を感じました。【40代 保育士】
- 先生の児童館や支援センターでのお話しは、現在子育て交流ひろばや認可外保育園で子育てスタッフとして関わっている私には「ふんふん、あるある」と腑に落ちる話ばかりで 良くわかりました。保護者との信頼関係の作り方、どう寄り添っていけばいいのかこれからも考えていきたいです。【50代 子育てスタッフ】

■第4回 遊びからの子どもの理解とその援助

- 改めて「遊び」の成長発達の段階を知ることができ、その段階を踏まえた「遊び」を提供、発展できるように、もっと遊びの種類を増やしたいと思いました。そのためにも個々の子どもの成長段階を把握し、その子に合った遊びが提供できるように頑張ります。【30代 保育士】
- 毎回のグループ討議では、様々な職場の方々が経験された実体験や事例に対する考えをきかせて頂くことが出来て、思いもよらないご意見や気づきもあり大変勉強になりました。【30代 幼稚園教諭】

■第5回 リスニング ～対人援助の基本となる聞き方～

- ただ話を聞くのではなく、その場の人数を調整したり、話しやすい環境を整えることの大切さをグループディスカッションを通して痛感しました。【20代 保育士】
- 2人組、4人組でリスニング演習をすることで、各々の立場の感情を感じたり、どの様な話を聞きだしていくかという難しさを感じたり、貴重な体験となりました。リスニングの基本を学ぶことができ、今後園でも実践していきたいと思えます。【50代 保育園園長】

■第6回 育ちが気になる子どもの理解とその家族の支援

- 未熟児、早産児や発達の問題がある子どもを外来で観て指導したり、教員と話し合うこともありますので、今回の研修に参加することで、乳幼児保育の現状や子どもへの関わり方への理解が深まりました。【50代 看護師】
- 1日5回の「ぎゅっとだっこ」を是非保育園でも試し、保護者の方にもお伝えしたいと思えます。子どもの好ましくない行動にすぐ「ダメ!」と言ってしまいがちですが、肯定的な単語で、時には見守ってあげて、良い行動を起こせた時に十分に褒められるようにしていきたいと思えます。【30代 保育士】